

清瀬 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 （1組：佐々木） （2組：佐々木） （3組：佐々木） （4組：佐々木） （5組：佐々木） （6組：佐々木） （7組：佐々木）
 教科担当者： （ 1～7組：佐々木 美和 ）
 使用教科書： （ 実教出版株式会社 家庭基礎 気づく力 築く未来 ）

教科 家庭 の目標
 【知識及び技能】 生活を主体的に営むために必要な、知識や技能を身に付ける。
 【思考力、判断力、表現力等】 生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決する力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】 周囲と協働し、自分・家庭・地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎	の目標
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	第1章 これからの人生について考えてみよう 1節 自分の未来予想図を描こう～生涯発達と発達課題～ ・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 ・今の自分について自己分析を行い、未来予想図を描く。 ・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・こんにちの社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考える。 2節 これからの人生をデザインする ・自分らしい生き方を設計する。	指導事項 ・ライフステージごとの特徴・課題 ・自分の特徴や長所と人生の展望 ・人生設計に必要な要素 ・自分の将来とこれからの社会 ・具体的な人生設計 ・仕事を選ぶうえで、大事にしたこと 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 【思考・判断・表現】 ・人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができる。 ・家庭基礎で学んだことを元に、具体的な人生設計をする。 ・仕事を選ぶうえで、大事にしたいことは何かを考える。 【主体的に学習に取組む態度】 ・現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取組もうとしている。	○	○	○	5
	第2章 自分らしい生き方と家族 1節 自立と共生 ・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・青年期の特徴について学ぶ。 ・これからの自分自身と社会のあり方を展望する。 2節 ライフキャリア ・働く意義とどのような仕事（職場）で働きたいと思うかを考える。 ・職業労働と家事労働の違いをまとめる。 ・職業生活や家庭生活における時間の使い方について考える。 3節 共に生きる家族 ・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族のライフイベントについて考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。 4節 家族に関する法律 ・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 ・家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。	指導事項 ・自立の種類とそれぞれの具体的な内容の把握 ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景についての理解 ・労働の種類、またその意義について多面的に検討 ・労働を支える社会や地域のしくみを知ること、私たちもその一員であるという自覚 ・結婚、家族・家庭の意義や機能について理解 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを理解 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解 ・法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくということ 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 ・生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できる。 ・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働との関係について理解できる。 ・結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 ・家族に関する法律についての知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・図表などから家族の形、家庭のあり方や役割について、また時代とともに変化した背景について読みとることができ、現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができる。 ・家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し、解決へ導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取組む態度】 ・男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。 ・労働の意義や役割、労働時間と生活時間との関わりについて関心をもち、現在の家族・家庭がかかえる課題を見いだそうとする。 ・結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかかわっているのか、興味・関心をもとうとしている。 ・家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解をしようとしている。	○	○	○	5

1 学 期	第3章 子どもとかかわる 1節 子どもとは ・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、はぐくんでいくことの責任感を養う。 ・子どもの感じ方についての例を出しあう。 2節 子どもの発達 ・子どもの発達。 ・子どものからだの成長のようす 3節 子どもの生活 ・子どものころを振り返ることで、基本的生活習慣や社会的生活習慣の身につけ方を学ぶ。 ・子どもの食生活・衣生活、安全管理について学び、子どもとかかわれるようにする。 ・絵本作りや読み聞かせを通して、子どもの遊びの意義や課題について考える。 4節 子どもをはぐくむ ・子育て中の親とかかわることで、現代の親子にかかわる課題と、解決の方向性を探る。 ・保育所などで実際に子どもとふれあう機会を各自で持つか、持てない場合は趣旨を説明して、各自が公園などで実習に代わる保育者インタビューを行う。 5節 子どものための社会福祉 ・子育てにかかわる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考える。 ・世界の子どもたちの未来に向けての課題解決の方法を考える。	・育児を学ぶ意義 ・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながることは自己理解が深まること ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいのなかで発達していく ・子どもの食生活・衣生活、遊びについて ・子どもを生み、育てる意義 ・親子関係の課題を理解し、解決に向けてできることを考えるもを生み、育てる意義 ・子育てのための国や地域の社会的支援について ・子どもの権利と福祉の歩みについて 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 ・子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。 ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 ・子どもとふれあう体験学習や、実践活動などについて、目的の設定、体験学習中の判断や学習後の考察などをまとめることができ、また、体験学習の成果や反省などについて、レポートを通して表現することができる。 ・準備、実施、考察・反省まで、体験学習の一連の学習内容をまとめることができる。 ・子どもの生活やとりまく環境、また、現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的に子どもとかかわりながら、理解しようとする。 ・生命の尊さについて、自分の現在、将来と結びつけながら、学習しようとする意欲がある。 ・子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくり、お菓子づくりなどの実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心をもとうとしている。	○	○	○	6
	第4章 高齢者とかかわる 1節 高齢社会に生きる ・これまでの高齢者とかかわりを振り返る。 ・高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。 2節 高齢者を知る ・高齢者についてのイメージをまとめる。 ・高齢者の生活場면을体験する。 ・高齢者と家族とかかわり、経済、社会での活躍などを知り、高齢者における生活の課題について考える。 3節 高齢者の自立を支える ・要介護の高齢者との接し方を考える。 ・高齢期の生活を健康に過ごすための心がけについて考える。 ・日常生活の介助を体験する。 4節 高齢社会を支えるしくみ ・高齢者施設での利用者の過ごし方、どんな人が働いているのかについてまとめる。 ・介護をめぐる課題の解決にはどのようなことが必要か考える。	指導項目 ・世界の動向と高齢者、高齢社会への理解 ・高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解 ・高齢期の心身の変化による生活行動の不安 ・要介護の高齢者に対して必要な心がけ ・日常生活を手助けできる介助の技術 ・介護保険制度について理解 ・介護をめぐる課題について理解 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・高齢化社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。 ・認知症の高齢者と接するときに必要な心がけを理解している。 ・介助技術や車椅子の扱い方を理解している。 ・高齢期を支える社会的な制度・しくみについて理解している。 ・高齢者の生活における地域社会の役割、地域福祉の重要性について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 ・高齢者へのインタビューなどで高齢者を知り、高齢者とかかわることで、高齢社会に関する課題を導き出すことができ、それをレポートなどで表現することができる。 ・要介護の高齢者と接する上で気をつけるべきことを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。	○	○	○	5
	第5章 社会とかかわる 1節 支えあって生きる ・人の一生と社会福祉とかかわりをイメージすることで、「福祉」の意味について考える。 ・社会保障制度のしくみを踏まえて将来に向けての課題を考える。 2節 共生社会を生きる ・暮らしの中の支えあいについて考える。 ・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。	指導項目 ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉の重要性 ・将来に向けた課題 ・支え、支え合う社会の大切さやボランティア活動の理解、ボランティア活動に興味・関心が持てるように 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。 ・ボランティア活動の意義について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。 ・自分たちの暮らす地域の福祉について、調査などを行い、自分でできることは何かを導き出すことができる。また、参加した活動についてレポートにまとめることができる。 ・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会において自分のできることは何かを導き出すことができ、それを支えあいの活動などの実践に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支えあいのしくみについて意欲的に理解しようとしている。 ・社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動や支え合う活動への興味・関心を持って、調査・参加しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1

	ホームプロジェクト学校家庭クラブ活動（夏休み課題）の説明 - 生活をあらためて見直し、解決することを検討する。 - 具体的な解決方法を探り、実際に改善する。	指導項目 - 生活の中で、よりよく暮らすための解決方法の検討 - ひとりで取りむだけでなく、協働することの意義	【知識・技能】 - 家族の生活時間や、食・衣・住に関すること、ボランティア活動など、自分で関心のあること、また生活から見えてくる課題を探ることができ、それに対する具体的な解決方法を考えることができる。 【思考・判断・表現】 - 自身の活動についてレポートにまとめることができる。	○	○	○	1
2学期	第6章 食生活をつくる 1節 日本の食文化の形成 - 日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 2節 私たちの食生活 - 食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 - ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。 3節 栄養と食品のかかわり - 自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 - 食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。 4節 食品の選び方と安全 - 旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 - 食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。 5節 食事の計画と調理 - 食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 - 調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。 6節 これからの食生活を考える - 食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 - 環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。 - 日本の食料自給率の現実	指導項目 - 日本の食文化の成り立ちを理解 - 和食の特徴を理解 - 食事調査を通して、各自の食生活の問題点をほ明日く - ライフステージごとの食生活の特徴 - 自身の食生活の現状把握と今後の課題 - 健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫を理解 - 栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識 - 季節ごとに旬の食材があること - 表示の読み方を理解し、情報を正確に把握 - 食品を見分け、よりよい選択ができるように・食中毒に対する予防法 - 家族の食生活の計画と管理ができるように - 衛生と安全に配慮して、調理することができるように - 年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解 - 食品添加物について理解 - 家族の食生活の計画と管理ができるように - 衛生と安全に配慮して、調理することができるように - 年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解 - 日本の食料自給率の現状を理解 - 日本の食糧事情を解決するために - 情報に惑わされることなく安全な食品選択	【知識・技能】 - 栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 - 旬の食材にはなにがあるか、なぜ旬の食材がよいのかを理解している。 - 食中毒の予防法や、食品添加物の特徴をとらえることで、安全な食品について理解している。 - 栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら、献立を作成することができる。 - 調理実習を通して、日常の食事づくりに必要な調理技術を身につけ、献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。 - 現在の日本の食生活においての課題について調査などから発見し、解決の方法について、自分の考えをまとめることができる。 【思考・判断・表現】 - 栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 - 調理実習において、作業の流れを判断しながら取組むことができる。 【主体的に学習に取組む態度】 - 食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。 - 調理実習においては、積極的に参加し、取組もうとしている。	○	○	○	15
	第7章 衣生活をつくる 1節 人と衣服のかかわり - 季節ごとの着こなしについて考える。 - 衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 - 衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。 2節 衣服の素材の種類と特徴 - 快適な衣服の特徴や機能について考える。 - 暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。 3節 衣服の選択から管理まで - 衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 - 洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。 4節 持続可能な衣生活をつくる - 環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。 5節 衣服の構造・デザイン - 洋服と和服の違いを考える。 - 日常着を製作する。 - 浴衣の着つけについて学ぶ。	指導項目 - 人はなぜ衣服を着るのか - 衣服が持つ機能や安全性についての知識 - だれもが快適な衣生活を送るための要因 - 衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択 - 衣服の加工技術について - 衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのか - 購入から洗濯などの管理・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管 - 私たちの衣生活が環境や世界とどのようにつながっているのか - 日本の和服について - 着つけを学び実践することで和服に親しむ - 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。 - 衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 - 衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 - 不要となった衣類について、リサイクルに回す、作りかえるなど、実生活において実践することができる。 - 材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 【思考・判断・表現】 - 衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。 - 衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 - 現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。 【主体的に学習に取組む態度】 - 自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的に取組もうとする。 - 基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査	○	○	○	7

3 学 期	第8章 住生活をつくる 1節 人間と住まい - 生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。 - 気候風土と住まいとの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。 2節 住まいの文化 - 和風木造住宅の空間的な特性や工夫をまとめる。 - 現代の暮らしにいかすことができる和の住文化をまとめる。 3節 住まいを計画する - ライフステージによる住まいの変化について考える。 - 快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。 4節 健康に配慮した快適な室内環境 - 室内環境と健康のかかわりを考える。 - 快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音、冷暖房などの要素を学ぶ。 5節 安全な住まい - 災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考える。 - 誰もが安全に住むための工夫を考える。 6節 持続可能な住まいづくり - 住宅政策の事例について調べ、住まいの課題を考える。 - 居住問題についての法律・制度・施策を調べる。 - 住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいについて考える。 定期調査	指導項目 - 住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。 - 日本の伝統的な住居の、建築的な工夫や暮らしの工夫を見つける。 - 日本の住まいの変遷、生活様式などを理解する。 - ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。 - 健康的な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。 - 安全で長く住み続けるために必要な適切な管理の方法を理解する。 - 家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。 - 日本の住宅政策の目的を理解する。 - まちの課題について自分なりに解決策を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 住まいの役割・機能について、地域の特性などをふまえて調査・研究ができる。 - 日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。 - 住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。 - 日照・日射・採光・照明、通風・換気、冷暖房など、健康的な住まい環境における基本的な知識が理解できる。また、住まいの清掃やメンテナンスについても理解し、快適な生活につなげることができる。 - 住まいの安全対策、住まいにおける健康管理など、実生活に役立てることができる。 - 安全で快適な住まいや、社会環境・地域環境についての知識を身につけ、現在の住生活の課題についても認識できる。 【思考・判断・表現】 - 現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。 - ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。 - 住まいの管理方法について、適切な掃除や頻度を考え、判断することができる。 - 安全な住まいづくりや、快適な住環境のためにどのような課題があるのか見つけることができ、その課題解決のための方策を考えることができる。 - 暮らしやすい住まいについて、住空間だけでなく、周りの環境とも関係していることをレポートなどを通して表現できる。 【主体的に学習に取組む態度】 - 住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。 - 住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的に取組もうとする。	○	○	○	5
				○	○		1
	第9章 消費行動を考える 1節 消費行動と意思決定 - 主体的な消費行動について多角的に考える。 - 情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 2節 消費生活の現状と課題 - 契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 - 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 3節 消費者の権利と責任 - 消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 - これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。 4節 ライフスタイルと環境 - 日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 - 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。	指導項目 - 消費行動において、意思決定のプロセスが重要であること - 情報リテラシーを身につける大切さ - 契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法について、被害にあった場合の解決方法について - 消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性 - 資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できること - 日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすること 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。 - 消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 - 消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。 - 家庭生活と資源・環境との関係についての知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 - 消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 - 多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。 - 消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。 - 消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を判断することができる。 - 環境に関するグラフなどから、生活における消費行動の問題点を導き出すことができる。 【主体的に学習に取組む態度】 - 自分が一消費者であることを自覚し、物・	○	○	○	10
	第10章 経済的に自立する 1節 暮らしと経済 - 生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 - 収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 - 適切な家計管理について考える。 2節 将来のライフプランニング - 将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。 - 金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。	指導項目 - 家庭経済と国民経済、国際経済の関係性 - 家庭の収入や支出、予算生活の必要性 - 生活設計とかかわる長期の経済設計の必要性 教材 教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 家庭経済・国民経済などのしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。 - 短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。 【思考・判断・表現】 - 現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えをもち、判断ができる。 - 将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 【主体的に学習に取組む態度】 - 自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的に取組もうとしてい	○	○	○	5
	第1章 これからの人生について考えてみよう 生活設計② 家庭基礎を学習する年度当初の学習のみで、自分らしい生き方を設計したワークシートを振り返る。	指導項目 1年間学んだうえで、年度当初に計画した人生設計の課題や改善点を吟味 教材 生活設計ワークシート、教科書、資料集、一人1台端末の活用 等	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取組む態度】 精神的な自立、経済的な自立、生活的自立、性的自立にむけて、家庭基礎で学んだ技術や知識を確認し、これからの人生を考え、再設計できる。	○	○	○	1
						合計	
						70	